

KIJA 北名古屋市 国際交流協会会報

発行者 北名古屋市国際交流協会
Kitanagoya City International Association (KIJA)
〒481-8531 北名古屋市役所（西庁舎4階）
TEL 0568-22-1111(内線)2400

vol.46

2023.7

— 事務局長は、いつからでしたか？

2011年4月からですから、12年を越えました。

— 協会設立は、どのような経緯だったのでしょうか？

きっかけは、2005年の愛知万博と聞いています。この博覧会は『地球大交流』をめざし、世界から120カ国地域、目標の150万人を越えた人が参加しました。入場者も2200万人を集め、大成功に終わりました。その収益金の一部が市町村に分配されましたが、2006年に新しく発足した北名古屋市では、2007年にその分配金をもとに、博覧会の成果を地域につなぐため、その

6月末で退任 坂下事務局長にインタビュー

10年を振り返り 次は…

12年もの長きに渡って
事務局長として国際交流協会に
貢献してくださった坂下平吉さん。
退任前にインタビューしました。

推進母体として、国際交流協会を立ち上げました。博覧会の成果を、どう根付かせていくかが、この10年の協会づくりのテーマでした。

— 博覧会の成果とは？

博覧会の成果を、地域づくりの観点から、1つ挙げるとすると、愛知県民のマインドが変化したことです。世界の人たちと私たちがリアルに交流できたことが大きい。「世界には様々な国があり、様々な人たちの暮らし、様々な考えがあり、様々な文化がある」ということを自分の目で見て、耳で聞き、そして、語り、交流しました。私たちの目が、内向きから、内にも外にも向けることができるようになったと思います。この県民のマインドの変化は、とても大切なことです。

その後の、世界の出来事が地域の暮らしに直結する国際環境のなかで、「地域の国際化」につながる地域づくりは、待ったなしだったのです。

— 協会は、この10年、何をしましたか？

時代は、グローバルになりました。ニューヨーク、キウウ、武漢など世界で起きたことが、私たちの



国際交流子ども芸術教室

暮らしに直結してきています。

例えば、コロナ禍。武漢で新型コロナウイルスがまん延し、パンデミックになり、私達の暮らしが壊滅的な打撃を受けたことから実感できると思います。

このような国際環境のなかで、地域づくりをどう進めていくか、様々なアプローチがありますが、特に、北名古屋市国際交流協会は、国際交流の分野で、市民が主役となって、地域を元気にすることをめざしてきました。

— 協会では『地域の国際化』をどのように進めてきましたか？

協会は『市民が主役となる草根交流』を進めてきました。

市民ボランティア会議をスタートさせ、アイデア出しから、企画・

坂下平吉

北名古屋市国際交流協会事務局長



運営、実施に至るまで、市民が主役を貫くことを徹底してきました。20を越える協会の事業は、4つの柱で進めています。

1つ目は『地域づくり』。例えば、北名古屋市には、2000人を超える外国籍市民が暮らしています。小中学校に通う外国人子女のほとんどは、両親の仕事の都合により、日本へ来ることになった子ども達。学校生活において、言葉の壁はもちろん文化や宗教の違いから戸惑うことも多々あります。協会はそういった子ども達のために週一回、放課後に「子ども日本語教室」を開講しています。毎週金曜日の夜には、社会人向けの「日本語教室」も開講しています。学習支援は、すべて市民ボランティアが行っています。

2つ目は『場づくり』です。なかでも力を入れたのは、アジア太平洋の国々と食や文化を通じて交流する場を企画する活動です。毎年2月、取り上げる国を変えながら開催する国際交流イベント『アジア太平洋フェスティバル』があります。このイベントには、1000名を越える市民ボランティアが参加します。11回を数え、2月の恒例イベントに育ちました。



アジア太平洋フェスティバル

3つ目は『人づくり』です。友好都市韓国務安郡、台湾台北市大同区や米国グアムへの友好交流の受け入れや派遣をしてきました。市民レベルでの草の根の国際交流が大きく開花しました。「百聞は一見に如かず」という言葉が

あります。リアルに交流の機会を持つことが、異文化を理解する最善の方法です。交流した後の体験レポートやスピーチを聞くと、心温まる交流ができています。がわかります。

コロナ禍で、往来が途絶えましたが、環境が整えば、一日も早く、多くの市民の参加する賑わいの交流を取り戻してほしいと考えています。

もう一つ大切なことは、「広報

拠点づくり」です。

グローバル化が加速するなか、北名古屋市は、外国籍市民の増大という課題に直面する時代が近づいています。今、必要なことは、豊かな地域社会の暮らしを外国籍市民と共通の利益として、ともに生きる社会を作ることです。

広報は、「私たちを知らせ、彼らを知る。」という相互理解する大切な役割を担っています。市民が主役となる広報を目指して、協会はその拠点をめざす必要があります。

10年かけて、4つのプラットフォームが出来上がりました。まだ、十分に成果は出ていませんが、これからもしっかりと前を向いて進んでほしいと思います。



韓国務安郡での草の根交流

愛知県下38市のうち、地域国際化協会を立ち上げているのは、30市です。北名古屋市国際交流協会は、歴史は浅いけれど、この10年で、事業の取り組みという観点からみると、上位グループに位置するまでに成長しました。

——この10年を振り返り、印象に残った仕事は何ですか？

2つあります。

1つ目は、寒さの厳しい2月に、国際交流イベントとして、アジア太平洋フェスティバルを恒例化することができたこと。

韓国フェスティバルからスタートさせ、多くの市民の皆さんが参加できる国際交流の場になりました。第5回には、韓国から舞踊団を招へいし、日本舞踊との日韓



台湾大同区での草の根交流

舞踊交流ができました。

第8回には、インドネシアを取り上げました。ジャカルタから人気のDJも参加し、県在住のインドネシアの人々が会場を埋め尽くしました。

コロナ禍で、3年ぶりに開催した第11回では、「フィルム・フェスティバルイン北名古屋市」として、テイバルインとアフガニスタンで人道支援する日本人の姿を取り上げました。

2つ目は、海外の自治体や民間団体と幅広い草の根交流ができたことです。

北名古屋市が、スタートさせた韓国務安郡との友好交流に加え、米国グアム、台湾台北市大同区と市民が主役の草の根交流を



米国グアムでの草の根交流

推進できました。

協会は語学講座を開講してはいますが、英語以上に交流を続けてきた韓国への関心は高く、市民の韓国語の学習熱は冷めていません。外国語を学習するということは、外国の人、暮らし、考えを知る第1歩であり、国際理解の重要なツールです。草の根交流に手応えを感じています。

——わが国の国際化は加速しています。私たちの地域での暮らしは、どうなると思われませんか？

国立人口問題研究所が、長期的な日本の人口を予想しました。2056年には、人口が1億人を下回り、59年には、出生数が、50万人を割ると言います。2070年には、総人口が現在の1億2000万人から、3割減の8700万人になります。将来の日本を支える0〜14歳が、人口全体に占める割合が大幅に低下し、50年には1割を切り、その後も1割以下に推移するといえます。生産年齢人口（15〜64歳）も70年には、4535万人と、これから50年で3000万人も減ります。

外国人が日本の人口の下支えになる構図が鮮明になりました。70年には、9人に1人が外国人に

なる見通しです。

2022年には、生産年齢人口は約6900万人ですが、2030年には、6500万人を割り込み、あらゆる業界で人不足が深刻化するといわれています。

外国人との多文化共生社会づくりは地域の喫緊なテーマになってきました。

——今後の協会活動に何を期待しますか？

コロナ禍で、交流が全面的にストップしました。協会は対面式の交流が命で、これができなかった3年はつらかった。やっと、新型コロナウイルスも終息の過程に入りつつあり、この1年は「賑わいを取り戻す」1年になりそうです。

協会の土台は10年間でしっかりできていると確信しています。市民は国際交流の様々な分野で、「参加」したいと、ニーズは旺盛です。ぜひ、その願いの受け皿になってほしい。新しい体制で、コロナ後の協会づくりを頑張っしてほしいと思います。

この後は九之坪にお住いの新事務局長に協会の舵取りを任せます。

長い間お世話になりました。

私たちの国際交流

徳重 井上 洋子

日本語ボランティア活動に携わるようになって十数年、ふり振り返ると、あつという間の年月だったように思います。その間、様々な国の方と接し自分自身の生活の見直しにもなったり、考えさせられる日々でした。何気ない日常も他国の生活ぶり、お国事情を聞くと、どんなに恵まれているかと気づかせられます。又、ほとんどの方々が家族への仕送りのために働いているのが現状です。日本の過酷な労働条件の中で、若者たちの頑張りには頭の下がる思いがします。

今、思うこと

そんな中で、少しでも彼らの日本語理解の一助になるのであれば、その思いで、ひたすらボランティア活動に動いできました。その方のレベルにあわせての日本語学習のお手伝いは、とても楽しく、幸せな時間でもあります。又、何気なく使っている日本語の新たな発見の場になることもしばしばです。いろいろな意味でこのボランティアは自己成長にもつながります。

需要度が増す昨今、もっと多くの方にこの日本語ボランティア活動に関わっていただきたいという願いはいつばいです。何故なら、学ぼうという外国人に対して、ボランティアの数が少ないためです。国際交流は、多文化に触れるよい機会にもなり、視野を広めることもできます。この機会に是非とも生活の一杯に新風を吹き込んで新境地を広げられてはいかがでしょうか。新たな出会い、新たな発見が刺激になりひとつの若返り方にもなるものです。元気な限り、この活動を続けていきたいと思っております。



外国人生活情報サービス

地域で暮らす外国籍市民の皆さんの文化・習慣・言語などの違いから抱えている問題を、ともに考え、問題解決につなぐため、外国人生活相談サービスを行っています。〈予約制〉

日時 月～金曜日 午前9時～午後5時 場所 北名古屋市国際交流協会事務局

地域日本語学習支援ボランティア

外国籍市民やその子女の基礎的な日本語の学習支援を行っています。日本語で学習支援していただけます。初めての方、大歓迎です。

社会人向け

日時 毎週金曜日 午後7時15分～8時45分

場所 北名古屋市コミュニティセンター

小中学校児童・生徒向け

日時 毎週1回

場所 市内各小中学校

令和5年度事業計画・収支予算報告

令和5年度の重点事業

協会は多くの人と交流し世界に繋ぐ夢と希望を拡げるため、国際交流の「場づくり」、国際交流の担い手となる「人づくり」、国際交流を活用した地域づくり、「広報戦略拠点づくり」など、「市民が主役」となる草の根交流を推進し、北名古屋の国際交流拠点にふさわしい協会をめざしていく。

その実現のため、協会の活動は、市民参加とオープンな運営を基本に、アイデア出しから、企画運営、実施に至るまで、すべてのプロセスを市民の力を結集して取り組んでいく。特に、今年度の重点は、多文化共生社会づくりになぐ、外国籍市民の地域日本語教育支援を積極的に推進していく。

令和5年度事業計画

◆ 国際交流の場づくり

◆ **第12回アジア太平洋フェスティバル**
アジア太平洋諸国との国際交流の場として、「第12回アジア太平洋フェスティバル」を開催する。「アジア太平洋を覗く、知り、食す」をテーマに、食と文化の交流を通して、アジア太平洋諸国の国際理解を深めるため市民手づくりのアイデア溢れる国際交流イベントとする。

◆ 国際交流子ども芸術教室

名古屋芸術大学留学生と子どもたちの国際交流の場として、芸術教室を開講し、国際理解を深めるとともに国際感覚を育てる。

◆ 国際交流の担い手となる人づくり

◆ **草の根交流プログラム(派遣・受入)**
北名古屋と所縁のある韓国務安郡、アメリカ・グアム、台湾台北市大同区等との「市民が主役となる草の根の国際交流の実現をめざす。東アジアでの日本を取り巻く国際環境の理解を深め、地域づくりにつなげていく。

◆ 外国語講座

一般市民を対象に、韓国語2コース、中国語1コース、英会話2コースの3か国語5コースを健康ドームで開講する。

◆ 国際交流を活用した地域づくり

◆ **北名古屋地域ブランドプロジェクト**
このプロジェクトは「国際交流をツールとした地域づくり」事業である。運営企画会議で北名古屋地域ブランド産品を企画提案するとともに、開発提案した産品等をイメージキャラクター「いっちゃん」を活用して、普及啓発する。

◆ SDGs(持続可能な開発目標)プログラム

SDGsは、2030年までに達成をめざす、貧困や気候変動など地球社会の課題解決に向けた国際社会の共通目標で、2015年に国連で採択された。地域でのSDGsへの取り組みを啓発、普及することにも、SDGs活動を地域づくりにつなげていく。

◆ 多文化共生社会づくりプログラム

地域と外国籍市民との共生をめざす多文化共生社会づくりにつながる交流プログラムを地域日本語教育推進事業とともに実施する。

◆ 国際理解プログラム

一般市民を対象に、国際理解を深めるため「世界を知るシリーズ」(国際貢献シリーズ)、「国際交流をツールとした地域づくりシリーズ」などの講演会やビデオ映画鑑賞会を開催する。

◆ 国際交流を活用した広報戦略拠点づくり

◆ **広報戦略事業の拠点づくり**
北名古屋広報戦略プラン(外国人向け)を実現していく担い手は市民である。「市民が主役」となる広報の拠点づくりのプラットフォームを協会に整備する。

◆ ファクトブック(北名古屋方式)の活用

ウェブサイトに開設した「ファクトブック」(北名古屋方式)を活用して、「地域のこし、地域づくり、地域みぎ、地域じまん」を発信する。協会のホームページとしても活用する。

◆ 外国語支援プログラム

外国人や外国籍市民が来訪する市役所でのコミュニケーションを円滑に進めるため、案内窓口などに7か国語通訳機能機器ボクターを配置し、外国語支援する。

◆ 外国人生活情報サービス

地域で暮らす外国人や外国籍市民が文化・習慣・

言語などの違いから抱えている問題をともに考え、問題解決に導くために支援する。外国人や外国籍市民を一般市民とする生活情報サービスを提供する体制の構築をめざす。

◆ 会報発行

協会の活動や催事、各種講座等の案内、会員ボランティア募集、市民の草の根の国際交流活動等を紹介する会報をWEB上のファクトブックに、年3回程度発行する。

令和5年度地域日本語教育推進事業計画・収支予算報告(特別事業)

令和5年度事業方針

多文化共生社会の実現をめざすため、「生活者としての外国人」の日本語学習機会の確保を図るなど、地域における日本語教育環境を強化する。この事業の推進にあたっては、市民参加とオープンな運営を基本に、アイデア出しから企画・運営、実施まで市民主導を徹底し、「市民が主役」となる国際交流をめざす。

令和5年度事業計画

◆ 子ども日本語教室

外国籍市民の子女で、市内公立小中学校に通う児童生徒を対象に、週1回、小中学校で開講する。

◆ 多文化子育てサロン事業

未就園児を持つ外国籍市民との「ことばの交流」を推進し、優しい日本語の理解促進と子育て世代交流を図る。

◆ 社会人日本語教室

外国籍市民を対象に、週1回「コミュニケーション」で開講する。

◆ 多文化共生プログラム

地域文化理解を深め、「やさしい日本語」を学習する環境に資する子育て世代交流を図るとともに、また日本語学習環境の整備に資する研修と交流を図るため多文化共生プログラムを実施する。

令和4年度事業報告・収支決算報告

令和4年度事業報告

コロナ禍であったが、当初計画した「場づくり」、「人づくり」、「地域づくり」、「広報拠点づくり」の4つを柱とする15事業を実施した。

◆ 国際交流の場づくり

◆ **アジア太平洋フェスティバル**
ウクライナにおける市民革命の長編ドキュメンタリー映画「ヒバ」と、アフガニスタンでの日本人中村哲医師の人道支援活動の長編ドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともし」の上映会として開催した。約560名に達する、多くの市民の皆様に参加をいただき、大変、好評であった。

◆ 国際フェア

国際交流の場づくりとして、各種イベントに出展参加した。国際交流コーナーをボランティアの皆様とともに設置し国際理解を深めた。

◆ 国際交流の担い手となる人づくり

◆ **外国語講座**
一般市民を対象に、韓国語1コース、英会話1

コースの2か国語2コースを開講した。

◆ ボランティア研修プログラム

ボランティアの資質とスキル向上のための研修会講習会やボランティアネットワークを構築するための打合せ会を開催した。

◆ ボランティア登録者数

通訳翻訳、イベント、日本語教室、生活相談、運営企画会議など登録者数215名。

◆ 国際交流を活用した地域づくり

◆ **SDGs(持続可能な開発目標)プログラム**
SDGs活動を地域づくりにつなぐため、地域でのSDGsへの取り組みを啓発、普及するキャンペーンを実施した。

◆ 国際理解プログラム

一般市民を対象に、国際理解を深めるため、「世界を知るシリーズ」として、講演会「国際秩序破壊・ブーチンの蛮行」を実施した。

◆ 国際交流を活用した広報拠点づくり

◆ **広報戦略事業(北名古屋方式)の拠点づくり**
◆ **ファクトブック(北名古屋方式)の活用**
◆ **外国人生活情報サービス**
◆ **ホームページの更新**

令和4年度地域日本語教育推進事業報告(特別事業)

令和4年度事業報告

◆ 子ども日本語教室

外国籍市民の子女で、市内公立小中学校に通う児童生徒を対象に、週1回、小中学校で開講する。

◆ 多文化子育てサロン事業

未就園児を持つ外国籍市民との「ことばの交流」を推進し、優しい日本語の理解促進と子育て世代交流を図る。

◆ 社会人日本語教室

外国籍市民を対象に、週1回「コミュニケーション」で開講する。

◆ 多文化共生プログラム

地域文化理解を深め、「やさしい日本語」を学習する環境に資する子育て世代交流を図るとともに、また日本語学習環境の整備に資する研修と交流を図るため多文化共生プログラムを実施する。

令和4年度 収支決算報告

【収入の部】	
負担金(会費など)	442,000円
補助金・助成金	8,905,000円
諸収入(利子・受講料など)	723,049円
繰越金	1,023,816円
計	11,093,865円
【支出の部】	
事務費	7,851,611円
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・需用費・役務費・委託料など)	
事業費	1,908,129円
(報償費・旅費・需用費・委託料・使用料及び賃借料など)	
予備費	0円
計	9,759,740円

令和4年度 収支決算報告(特別事業)

【収入の部】	
補助金交付金	2,762,000円
諸収入(利子・受講料等・雑入など)	194,274円
繰入金	2,644,006円
計	5,600,280円
【支出の部】	
補助対象事業費	5,524,736円
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・旅費・需用費・役務費・委託料など)	
補助対象外事業費	75,544円
(需用費・使用料及び賃借料・雑費など)	
計	5,600,280円

令和5年度 収支予算報告

【収入の部】	
負担金(会費など)	610,000円
補助金・助成金	9,000,000円
諸収入(利子・受講料など)	1,281,000円
繰越金	1,334,000円
計	12,225,000円
【支出の部】	
事務費	8,250,000円
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・旅費・交際費・需用費・備品購入費・繰越金など)	
事業費	3,935,000円
(報償費・旅費・需用費・役務費・委託料・負担金補助金など)	
予備費	40,000円
計	12,225,000円

令和5年度 収支予算報告(特別事業)

【収入の部】	
補助金交付金	3,049,000円
諸収入(利子・受講料等・雑入など)	268,000円
繰入金	2,956,000円
計	6,273,000円
【支出の部】	
補助対象事業費	6,098,000円
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・需用費・役務費・委託料など)	
補助対象外事業費	175,000円
(需用費・役務費・使用料及び賃借料など)	
計	6,273,000円

文化庁 令和5年度 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業を活用しています。(愛知県 令和5年度 地域日本語教育推進補助金)



各種 申し込み お問い合わせ 等は下記までお願いします

北名古屋国際交流協会 TEL 0568(22)1111 内線 2400 FAX 0568(25)1800

Eメール info@kitanagoya-kiia.jp
ファクトブック https://www.kitanagoya-factbook.jp
フェイスブック https://www.facebook.com/kitanagoyakiia

〒481-8531 北名古屋西之保清水田15番地 北名古屋市役所西庁舎4階